

令和5年度 放課後活動指導者研修② 実施報告

実施日：令和5年6月7日（水）

◎ 当研修は、放課後子ども教室において、子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動を行うことができる場づくりに必要な知識や技術の習得を図るための研修です。第2回は総合教育センター体育館で実施し、55名が参加しました。

○ 演習 「子どもを守る危機管理」(救急救命法)

講師 日本赤十字社 栃木県支部 主任指導員 阿久津 博子 氏

指導員 金枝 明子 氏 長山 知恵子 氏

今回は、日本赤十字社栃木県支部から講師をお招きし、子どもを守るための危機管理について、救急救命法に関する講話と実技演習を行いました。

まず、意識や呼吸の有無、手足を動かせるかどうかなどの傷病者の状況の確認方法について説明がありました。講師による演示の後、受講者は実際に傷病者の状況の把握の仕方について練習を行いました。

つぎに、心肺蘇生法の演習を行いました。心肺蘇生では、脳に血液を送り続けるために、強く、早く、絶え間なく行うことや、生命の蘇生だけでなく、その後の社会復帰に大きな影響を与えることなどを学びました。講師の演示の後に、訓練用の人形を使って心肺蘇生法の練習を行いました。救急隊が到着するまで心肺蘇生を続けるには体力が必要であることを感じた受講者からは、「こんなに大変だとは思わなかった」という声もありました。

さらに、心臓を正常な動きに戻すために電気ショックを与える除細動器（AED）の使い方や、喉にものを詰まらせたときの吐き出させ方についても学びました。受講者は子どもたちの安全を守ることに直結する活動に熱心に取り組みました。

○ 協議 「子どもたちの安全を守るために今後の活動で気をつけたいこと」 総合教育センター職員

受講者は、放課後活動に参加する児童に対して、安全に活動を行わせるためにどのような取組が必要かを、自分の体験や講話から得た知識を基に話し合いました。受講者は協議から、子どもの安全を意識した活動づくりについて考えることができました。

★ 受講者の声 ★

- ・ これまで救急救命法の研修を受講したことがあるが、今回の研修は実践が多く、これまでで一番分かりやすかった。心肺蘇生だけでなく、気道異物除去についても実践的に学ぶことができとても有意義な時間だった。
- ・ 子どもたちの遊びには怪我がつきものなので、安全に楽しく遊ばせてあげるように気を付けていきたい。
- ・ 「放課後子ども教室」で子どもたちが万が一危険にさらされた場合は、本日の研修を生かして対応したい。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL: 028-665-7206

e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp